



特別
子 12
3643
184



近代正說碎玉話

一名武將感狀記下云

拔出

近代正說碎玉話

源君進茶於秀吉事スメテラ

源君食麥飯行儉約事アツチヒマフ

秀忠公教訓御近習事シテ

源君相從壯士於御馬廻事アヒシカクテ

寺澤志摩守廣高行跡之事カウロキ

赤林蘭丸明敏之事シ

明智光秀叛逆安田功名之事ホシギク

三好長慶弔合戰之事トウラヒ

觀世左近論謠之三病事カク



源君進茶於秀吉事



一秀乃吉於伏見ニ 源君利家前田氏郷蒲生ヲ享キマウセラル此ヨリ聚樂ジユラクニ
 往ニキテ共ニ遊ユウ遊ユウシ歸路キヨロニ德川殿ノ所ニ立ヨルヘシトノ事ナ
 レバ 源君カクミシテナ忝カクミシテナシトテ宅ニ歸リ聚樂ニテ美食ノ上ナレバ
 唯茶ヲ奉ルヘシト云テ堂ヲ拂ハラフニ庭ニ洒ソウキ自壺ミカラノ口ヲ切キ
 茶一袋フクロヲ茶道チャダウ朱齊シウジニ令レイシテ挽ヒカシム明日
 源君聚樂ノ坐ヲ早ク立テ歸リ玉ヒテ茶ヲ御覽ミタマシズルニ
 減ゲン少セウナリ朱齊シウジヲ召メシテ大ニ怒イカリ責セメサセラル、朱齊水野
 監物是ヲ父ニベ候ヒ又上ノ御茶也ト制シ候ヒツレドモ聞入
 候ハズト申ス監物ハ御寵イキウ愛アイノ美童ミドウナリ又新アラタニ壺ノ口

ヲ切テ別ニ二袋ヲ取出シ茶道休閑ニ挽シム加々瓜集
人上ハ早御成ト申ス唯今テ挽候ヒテハ遅々仕ルヘシ初ノ
御茶減少ナリトモ侑メ奉ルホドハ有ベシト申セバ
源君ヤ、隼人汝ハ近習ニテ予ガ口具偽ヲモスル者ノ
カヤウノ心得ナキカ 縦茶ヲ挽イダサズシテ太閤徒ニ飯
ラセラレテ無興ニナルトモ已ニ人ノ飲タル餘リヲ侑ル道ヤ
アル其志ナラハ汝ガ奉公正シカラジト戒セセ玉ヘリ
源君ノ律義ナル事此類ナリ

十 升 昔 於 伏見 源君利家氏郷ヲ事セル此ヨリ聚樂
往 未 未 遊 歸路 徳川殿ノ所ニ立見ヘシト事ナリ

源君食麥飯行儉約事

一 源君於參河毎夏中ハ麥飯ニ近侍人潛ニ白米ノ飯
ヲ椀ノ底ニ入レ上ニ麥飯少計ヲ蓋テ出シケレバ 源君御
覽アリテ汝等予ガ心ヲ不曉以テ予ヲ吝ナルト思ヘルカ今戰
國ノ時ニテ兵役動又年ナシ士卒煩擾ニシテ寢食ヲ安
セス予獨何ゾ飽足ニ忍ヤ且我一身ノ奉養ヲ儉約ニ

レテ以テ軍用ニ給セントス百姓ヲ勞シテ自豊ナル事ヲセジ
ト仰ラレケレハ聞者皆悦服セリ

秀忠公教訓御近習之事

一 秀忠公御近習之人ヲ召テ事ノ次デニ道理諭キ者多クハ
道理ヲ盡ズ是其才智ニ馳テ事ノ根源ヲヨク不察不認
ナリ是ヨリ外ハアルベカラスト思フ事ヲ七人ニ問ヒ自省時此
碍彼ノ患アリ汝等常ニ此理ヲ思ハ事ヲ行ニ過失少カル
ヘシ武士ノ自決斷シテ人ロヲ不憚ハ各別ノ義ゾト仰ラル

源君相從壯士於御馬迴事

一 源君於遠州天方天野宮内左衛門ニ遇テ危カリシ時
近習僅六七人無類ノ勸ヲレテ躬難ヲ免サセタメリ此時
諸士ノ二男三男壯カノ者ヲ召出サレ軍陣ニテハ御馬迴リ
ニ相從フ是ヲ小十人ト名ツク信玄モ隨兵三十人謙信モ二
十人アリ古ハ正成義貞皆然リ

寺澤志摩守廣高行跡之事

一 寺澤志摩守廣高ハ肥前唐津肥後ノ天草兩城十二
萬石ヲ領ス毎日寅ニ起テ卯ニ至テ朝ヲ見朝ヲ見畢リ
テ飯前ニハ必馬場ニ出テ自一二匹ヲノル飯後ニハ鎗刀等
ノ術ヲ學ブ又ハ寒ニ十日射ヲ能スル者召テ若キ者共ノ

粥
糝
コナカキ

師範トシテ習ハシム先自身卷藁ヲ射テ各次第ニ令射
之夏ハ土用ノ中銃炮ノ替古モ亦此ニ類ス此時ハ一汁一
菜ノ飯ヲ廣高モ共ニ喰テ別ニ美味ヲ不喰夜武藝云ニ
遊ブトキハ粥糝ノ類是又士ト共ニス公用國政ノ急務
ナキ時ハ酉後臥床ニツク曰ク夜ハ可寐ノ理ナリ無用ノ
夜話ニ精神疲レ明日ノ勤ニ倦事甚不可也近習者
モ夜早ク休息セバ晝ノ勞劬ニ可耐ト也在國ノ年ゴトニ
國中ヲ巡テ民ノ艱苦ヲ問普請方郡方ノ奉行ニ命ジテ
豫水旱ノ憂ヲ防シメ賦稅徭役ノ不正ヲ正ス曰ク休暇
ヲ賜テ領國ニ歸ル遊山玩水ノ爲ニ非ズ一年江戸ニ在テ
自身領國ノ政ヲ爲訟ヲ聞事ナケレバ法度判斷モ非理

アリテ士民怨譎者アラニカ亂ノ端ナレバ公方モソコヲ思召ナ
ラン鷹野ヨ川狩ヨ茶湯ヨ連歌ノ會ヨトテ燕樂ヲ先ト
シ政令ヲ後ニスルハ公方ノ御心ニモ忤自己ノ先務ニモ怠ルナリ
國郡ヲ巡ラサル時ハ其奉行ニ云セテ聞ノミ只聞ノミニテ見ヌ
事ハ利害損益必所不盡アラント也唐津ハ烟所ニテ麥多シ
夏五月六月ハ家中ノ下僕皆麥飯ヲ食シム曰ク下僕喰ハシメ
ハ其主々モ喰テ可也我モ諸士ニ下知スル上ハトテ右兩月ハ
麥飯タリ又衣類木綿タルベシテ儉約ヲ守シム自分モ木
綿衣タリ曰ク下ニ所令自是ニ先ダツテ善トス以身教レバ
口ボ子ヲ不折シテ下僕ヨク從フト也凡廣高ノ行跡皆如
此

木林蘭丸明敏之事

一 木林蘭丸十六歳明敏也信長ノ前ニ出テ明智光秀ハ大ニ
タシミラ仕ル體ニ候臣ニ仰付ラレ候へ斬テ捨候ハント申ス
信長問何ノ故ゾ蘭丸今朝明智飯ヲ喫シ候トキ口ニ入タル
飯ヲモ嚙ズ何ヤラン案シ入テ手ニ持タル箸ヲ取落シタレドモ
覺ズ頃アリテ驚キ候是程ハ何ニヨツテ按ジ入候ベキヤ天下ノ
一大事ヲ思立モノナラン其思立ベキコトヲ察スルニ必逆心ナ
ラン日來明智ガ怨タテマツルベキ度條々アリ御油斷アルベ
カラズト申セドモ信長承引ナク遂ニ弑ニ遇タヘリ

明智光秀叛逆安田功名之事

一 信長明智光秀乃ニ令レテ秀乃吉ニカラ合セテ備中ノ高松城
ヲ攻サレム既ニ軍旅ヲ率テ大江坂ニ到ルトキ使番ヲ以テ諸
手ニフレテ馬ノ脊ヲ披カセ鞅ヲ固メサス比目コレヲ怪ムトコロニ
桂川ヲ涉リテ我年來信長ニ怨心アリ直ニ本能寺ニ赴テコレヲ
攻ヨト下知スレハ衆比目色ヲウシナルテ惘然タリ夜モ明方ニ俄
ニ本能寺ヲ十重廿重ニ圍テ屏重門ヨリ亂入信長白綾ノ
單衣ヲ着弓ヲ持矢ヲ挾テ今此ニ寄タル者ハ明智ガ汝等
此ヲサレ無道ニ與シテ不義ヲ辨ザル奴原一々射殺サンゾト大
聲ヲ厲シテ言奴心レケレハ其勢ニ辟易シテ亂入タル者共モ屏
重門ノ外ニ逃出ソノ中ニ安田作兵衛一人自名ヲ呼テ鎗ヲ横
タヘテ進ヨル信長挾トコロノ矢ヲ放レケレバ安田ガ左ノ臂ニ中ル

浅年ナレバ屑トモセズ信長ヲ目ニカケ一鎗ニ刺スレバ信長障
子ヲハマトサシテ内ニ入安田追付障子越ニコレヲ刺手ゴメヘシテ
鎗サキ動ケレハ中タリト思ヒ障子ヲアケテ推込ントスル所ニ信長
ノ愛童木林蘭丸十文字ヲ提テ走出安田ヲ楅サキノ溝ニツキ
ツキ落ス蘭丸上ヨリ臨カリヲガミ撞ニツキタリケルカ股ノ間ニツキ
入テ陽根ノ半ヲ突切タリ安田其柄ヲレカト執上ヨリヒク勢ニ
引起サレテ溝ヨリ出ルコトヲ得タリ即佩刀ヲ拔テ蘭丸ヲ斬是
ヲ始トシテ四方ヨリ攻入バ内ヨリ火ヲハナキテ忽焼滅ス安田
ハ後ニ寺澤志摩守廣高ニ仕テ平野源右衛門ト云秀乃吉
肥前ノ唐津八万石ヲ以テ廣高ヲ封セラル、時平野ニ八千石
ヲ與ヘ又平野始廣高ト友タリ常ニ交會ノトキ今亂世ナリ

モシ鎗サキヲ以テ國郡ノ主トナラバ互ニ十分一ヲ以テ家老ト
セント堅ク約セラル、ニ由テ平野ヲ尋テ呼出シ約言ノ首尾
ヲ合セラレケル天草四万石ハ後源君ヨリ加賜ハリシ所也

三好長慶弔合戰之事

一三好修理太夫長慶四國ヲ領シ五畿ヲシタガヘテ天下ヲ支配
配セントス其第三好豊前守之康八道實休ヲシテ河内ノ
若江ニ居レム永禄五年三月五日ニ畠山尾張守高政根來
法師等ト和泉ノ久米田ニ戰テ實休討死ス長慶ハ飯盛
ノ城ニテ連歌ヲ興行ス半ナル時前句アリ

其薄ニマヅル蘆ノ一ムラ

人々附口ツラヒ長慶モ續句ヲ思ヒメグラス處ニ實休擊死
ノ告アリ封書ヲ披テコレヲ見ル不_{モイハ}言シテ其書ヲカマハラニ
置テ目ヲ閉シバク思_シ按_シテ

古沼ノ淺キ方ヨリ野トナリテ

滿座大ニ感ズ附スリテ曰ク實休敵ノ爲ニウメレヌ今_ケ日ノ
連歌此句ニテ止ムヘントテ即時_{ソクジ}ニ兵ヲ催_{モホ}シ吊合戰ヲ遂_{トゲ}テ
長慶モ危_{アヤク}カリシカドモ終ニ大勝ヲ得ラレタリ

太田三樂知松田之異心事

一 太田三樂齊_{サシラクサイ}小田原ノ攻ロニアリ松田尾張守ガ手ヲ見テ
異心_{イシン}アリト云此時松田ステニ承乃吉ニ誅_{アサカ}レテ内通ス三樂

コレヲ知ズレテ其言當レリ承乃吉コレヲ奇_{オキ}テ曰何ノ見ル所ゾ
三樂ガ云松田ガ勇謀_{ユウボウ}人ノ恐ルトコロナリ今日軍備ヲ正
サズ諸卒ヲイマシメズ役所ヲ巡_{メグル}ズカレ素ヨリ臆_{オソ}スベキ者ニ
アラズ心ヲ味方ニ通ズルガ故ナリト承乃吉嗟嘆_{サタタ}シテ
源君ニ對シテ曰今此ニツノ不思議アリコレヲ知ルヤ
源君ノ曰一ツハ三樂ナランニツハコレヲ解_{トカ}ズ承乃吉曰我
匹夫ヨリ起_{オコ}リテ天下ニ主_{シユ}タリ三樂ガ知_チアリテ一國ヲモ有_メ
コトヲ得ズコレニツノ不思議ニアラズヤ

觀世左近論_ル謠之三病_ヲ事

一 觀世左近ハ謠ニ名ヲ得タル者ナリ後剃髮_{テイハツ}シテ安休_{アシキウ}ト號_{ガク}ス

謡ニ三病アリサンビョウ 穀耳ノヨキトオホヘ 覺ノツヨキトヒマワシ 拍子ノキ、タルト此、
三事ツキハ 備レル者多分タビ 謡ニ不成ヤム テ止ト人ニ教ヲシ へ又是レ 何
ノ道ニモアルベキ事ナリ器用キヨウ ヲ頼ム者ハ自ミツカラ 満リトス自
満リトスル者ハ工夫クフウ ヲ不積ツミ 工夫クフウ ヲ不積ツミ 者ハ諸藝シヨウギ ノ奥アウ
意イ ヲ曉サト リ難レ

古ヨリ今ニ至ルニテ勝負ノ道ヲ説トク ニ徳トク ハ才サイ ニ勝カチ 才サイ ハ力カチ ニ勝カチ
ト云



